

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 地域でくらす会	理事長	井上 徹	法人・ 事業所 の特徴	いくのさん家の基本理念「関係性こそ、その人らしさ どう生きたいか、に立ち返る ひとりの支援は、地域を変える」に沿って、住み慣れた自宅や地域での生活が安心して継続出来るよう、地域資源を活用したり、近所の方にも協力していただいたりして、一人ひとりの思いを大切にす支援をするよう心掛けている。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護 いくのさん家	管理者	安治 浩子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	2人	2人	1人	1人	3人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> 事業所の常勤スタッフ全員の意見が反映されているのか? 改善計画の中で「他職員に伝えていく」「繰り返して行う」とあるが、具体的な方法を示した方が良い。 地域かかわりシートを配布の際、常勤職員の人数など細かい説明が事前にあれば、Aの評価がし易かったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「介護連絡表」の書式を、職員が目を通しサインをする欄を新たに設け、情報共有を確実にする。 地域かかわりシート配布時は、細かな説明をする。
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議には出席しているが、事業所の中を知らなかった。 どこに入ったら誰に会えるのか、部屋の表示がないのでわからない。(その反対の意見として)あからさまに表示がしてあるのも、家庭的な雰囲気を壊すのではないか。 居間が狭くて(人が多くて)、足の踏み場がない感じがする。別の部屋の活用をしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めの運営推進会議で、事業所内を案内する機会を設ける。 玄関周辺や中庭に花を植えたり、建物周辺の整備を年間通して心掛ける(担当：環境整備係)
C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> 立地的に事業所に訪れる人が少ないのではないか。 汽車に乗っていて見えるような看板を掲げてはどうか。 「地域」とはどこまでをいうのかよくわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の目印となる「いくのさん家」の看板を作る。 「かけこみ110番」ステッカーを貼り、入りやすい雰囲気を作る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> 設問の意味がわかりにくく、答えにくい。利用者以外のご近所(地域)の人にどこまで関わるべきなのだろう。 町内の人と畑を通しての付き合いをしたり、行事に参加したりと地域に出向いていると思う。 (Dr.より)AEDの講習会をしますよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方にも参加を募り、AED講習会を開催する。 地域の行事(一斉清掃や町内総会等)に参加し、情報収集する。
E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> 会議では利用者の事例やDr.の話が聞けて良い。 多種多様な参加者が出席しているので良い。 事業所のことがよく分からない人が出席しても、何をしゃべったらよいか分からないのではないか。 質の向上の為に、なるべく研修等の機会を多くの職員に保証することが、職員の意欲を高めると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会やスキルアップのための勉強会等の情報を職員へ伝達し、興味がある職員は参加してもらう。 リスクマネジメント委員会を作り、事故防止・改善を図るしくみ作りに取り組む。
F. 事業所の防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> 事業所で防災訓練をしているのは知っているが、防災計画を知らない。少なくとも3つ(地震・火事・水害)についての計画はいるのでは? 職員全員が応急手当の実践力を身につけた方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の防災計画を、運営推進会議で提示できるようにする。 防災訓練は地域の方にも案内する。

